

第4回乙訓圏域障がい者自立支援協議会地域生活支援部会議録

日 時 平成28年12月9日（金）午後1時30分～3時30分

場 所 乙訓保健所 講堂

出席者 地域生活支援部会委員 10人

乙訓障がい者基幹相談支援センター・キャンバス・NPO法人こらぼねっと京都・乙訓福祉会・京都府立向日が丘支援学校・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課

事務局 2人

欠 席 乙訓ひまわり園・乙訓若竹苑・乙訓やよい会・大山崎町福祉課

会議の公開・非公開 **公開** 傍聴 3人

配布資料・次第

- ・緊急時対応についてのアンケート報告（案）
- ・緊急時対応についてのアンケート集計報告（案）
- ・緊急時対応アンケート配布数

資料確認

(部会長)

・第4回の地域生活支援部会を始めたいと思います。今日の案件は「緊急時対応についてのアンケート」の報告を皆さんにお配りすることについてと支援校の卒業生の進路のことや各事業所の空き状況を今調べてもらっているところだと思うのですがその話をていきたいと思います。順番にいきますね。

1. 「緊急時対応についてのアンケート」の報告について

(部会長)

・作業部会を開きながら添付の資料の中に修正をしてきたものを載せていました。お目通しをいただいて、今日、最終確認がとれたらアンケートをお願いしたのと同じルートで配布をすることでしたいと思いますので、よろしいでしょうか？

(奥田副部会長)

・一番始めにこの文書、「緊急時対応についてのアンケート報告（案）」ということで、これについてご意見あられる方ありましたらお願いします。訂正等ありませんか？

(安蒜委員)

・最後の段落の「別紙集計結果をご報告します。」がちょっと上に持っていた方が良いかなと思いました、「分析する必要があります。」の後に「別紙集計結果をご報告します。」となっているので、これを「アンケートの大きな目的の（中略）分類を行いました。」の後ぐらいに入れた方が良いのかなと思いました。この最後の段落というのは、この部会で問題もあるから色々検討していきますよというところなので、ここにポンと入ったら不自然かなと思っただけなのですが。上にいった方が自然かなと思いました。すみません。段落間違えました。下から2段目の段落でした。

(奥田副部会長)

・上に入れますか？「別紙集計結果をご報告します。」という文を下から4段落目の「アンケート結果から（中略）分類を行いました。」の後に付けますね。

(安蒜委員)

・最後の段落の「なお、この内容については、」というのは省いた方が綺麗かなと思ったのですが。「まだまだ読み込み、分析する必要があります。」なので、内容について言っているので、「引き続き」と言った方が良いかなと。文章の体裁だけですが。

(部会長)

- ・「別紙集計結果をご報告します。」が抜けたから、その分、この段落を一個にしてしまったら良いということですよね。
(安蒜委員)
- ・それで、「なお、この内容については、」を削った方が良いかなと思います。
(部会長)
- ・ひとつの文章にしたら、いらなくなりますよね。段落を変えるから必要なだけなので。
(奥田副部会長)
- ・よろしいですか？それでは右上に②-1と付けてある「緊急時対応についてのアンケート集計報告（案）」の部分についていきたいと思います。右下のところにちょっと文章で書いていますが、これだけ追加になっています。部会の中でのご意見で追加させていただいた部分ですが、このところについてご意見ございますでしょうか？大丈夫ですか？では、次に進みますね。②-2です。表の部分について対応がちょっとわかりにくいのかなというような意見がありましたので、もう、表に全部入れた形にさせていただいている。それと、あと小文字のbが大文字のBの内訳だということで点線で内訳ということで書かせていただいている。この表の部分はこれで大丈夫でしょうか？ア・イ・ウ・エをⒶ・Ⓑ・Ⓒ・Ⓓとしましたので、上の文章もⒶ～Ⓓとしています。
(安蒜委員)
- ・表の中のbを結局ひと段落ずらしていますが数字のところが内数なのかどうなのか、何かわかりづらくて、括弧でいくとか何かお願いしたいと思います。
(奥田副部会長)
- ・括弧で良いですか？括弧にしたらわかりますか？（内）としますか？（内）を付けます。空白のところも全部0を入れておきますか？
(安蒜委員)
- ・あと2行目ですが、「アンケート項目のうち（中略）について、」までが取った方が良いのかなと。項目5のことをずっと述べているので、ここでもう一回わざわざ説明するのがまどろっこしいかなと思っただけです。「アンケート項目のうち（中略）について、」というのが二度説明みたいな感じになっているので。
(奥田副部会長)
- ・②-2の「アンケート項目のうち（中略）について、」までが項目5の説明をここに書いているので、そもそも5という項目は前のページに入っているということですか？
(安蒜委員)
- ・残っていても良いのは良いのですが。
(奥田副部会長)
- ・これをずっといじくっていて、ひとつ思ったのですが、アンケート項目に沿って書いているのですが、②-1のところの表の一番始めのところに「以下、アンケート項目にそって表記しています。」というのを追加させてもらっているので、ここはページが変わるので書いてあっても良いのかなとは思うのですが。
(部会長)
- ・かぎ括弧が2つの意味で使っているから、前と後ろのかぎ括弧を二重かぎ括弧にしてはどうですか？ずっと触っている者にとってはわかっていることだからまどろっこらしいのですが、初めて見た人がページが変わっていることについてサッとわかるかというと「何のこと？」となるので。
(安蒜委員)
- ・まあ、あっても良いのですが。
(北達委員)
- ・「アンケート項目にそって表記しています。」だったら、「回答者」等ももうちょっとこうわかるようにしてもらうと。せっかく大文字ではなっているのですが。「表記しています。」のところも。カラーだとわかりやすいのですが白黒だと何となく線を引いてもらう等ではないですが。
(奥田副部会長)

- ・「1回答者」のところですよね？アンケート項目の項目に該当する部分ですよね。「1回答者」「2障がいのある方の年齢」等のところをもう少し線を引く等目立つようにということですよね。

(北達委員)

- ・さっきのページが変わったということで思ったのですが。あくまでも「アンケートの項目に沿ってです。」ということがちょっと見た時にもわかりやすくなっている方が初めて見た人にとってはわかりやすいのかなと思ったのですが、そこは関係ないですか？

(部会長)

- ・分類のところが全部、四角囲みの吹き出しになっているので、きっと。

(奥田副部会長)

- ・これはちょっと印刷が薄いのだと思うのですが、この表にはそもそも四角の枠線が入っています。だから、ちょっと感じが違うかと思います。まあ、タイトルに下線を付けるとか、囲むのはおかしいですよね。

(部会長)

- ・囲み・囲みになってしまふ。これで出すつもりだったら、これが四角囲みに一個ずつなっているので、これにまた四角囲みするとか線を引くとかすると囲み・囲みになるので。

(北達委員)

- ・了解しました。

(奥田副部会長)

- ・②-2の方ですがグラフのところについては触っていないです。

(岩谷委員)

- ・ちょっと気が付いてしまったのですが小文字のbのところで「b 子どもが病気などで」だと思うので、「が」が抜けていると思うのですが。

(部会長)

- ・表のところのbのところで「Bの中で」となっていますが、その後に括弧にして内数にするから同じ内数でも良いと思います。「Bの中で」というのを「内、子どもが」にする。文字数を減らすということで。

(安蒜委員)

- ・⑦になっているので揃えるのであればグラフのところも⑦だと思います。対応分類が⑦～⑨となっているので。

(奥田副部会長)

- ・グラフのところですね。では、グラフのところまでは良いですか？それでは最後、6のところです。前回、意見がありましたので文書の上・下を入れ替えたりして書かせていただいています。

(安蒜委員)

- ・「24時間・365日」か何か。

(北達委員)

- ・「土・日・祝・夜間を問わず。」

(安蒜委員)

- ・私のメモには「土・日・祝・夜間を問わず」と書いてあります。

(北達委員)

- ・時間のところも言っていたような気がするのですが。違いましたか？

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・わかりやすく「24時間・365日」としたらどうですか？

(部会長)

- ・前回の話の中でここに「土日祝日・夜間を問わず」という文章にしようと言つてご意見があつたのを「夜間を問わずいつでも」という風になつたのを文章をいじくっている間に「夜間」が抜けてしまつたのだと思います。入れてもらつたら良いと思います。前回、話をして作業部会でも色々検討したことが抜けていないかどうかの確認を今日はして、も

う出したいので、もう一回新たなことに気付いているとずっと延々やり続けないといけないので、いくらでも気付くことはあると思うのですが。「夜間」は元々そう言っていたのが抜けているのでそこに入れて。

(奥田副部会長)

- ・良いですか？

(安蒜委員)

・最後の段落の「いずれも『どんな時も理解してもらって安心して』というところの『どんな時も』というのが今までなかったのですが、普通に「理解してもらって安心して任せられる」だったのですが「どんな時も」というのが入っていて、それがあった方が良いのかどうかちょっと悩んでいるのですが。

(部会長)

・前回の話の中で、前回の文章はここが続いていました。「意見があり、理解してもらって安心」みたいな感じで続いていたのでわかりにくいのと、私のメモだと「どんな場合でも」ということを言ってほしいという声もあったので、この文章を二つに分けました。「さまざまな支援を求める意見がありました。」とひとつ分けて、続いていたのを段落を分けたので、そこに前の「いずれも『どんな時も』」というのが文章として成り立たせた時にこういう表現になったと思うので、ここにきて「いずれも」がいるのか、「いずれも」はたぶん「災害時の避難場所」や「兄弟も一緒に過ごせるように」、「在宅での24時間体制」、「通所サービスの延長」等どのいずれの支援についても理解してもらって安心して任せられることがほしいですという趣旨だったと思います。そこに「いずれも」と「どんな場合も」というその言葉があったので、それをたぶん文章を作っていく時に、成り立たせていくのに、「いずれも」を前の文章を指す意味で「いずれも」を入れていると思います。「どんな場合も」というのと「いずれも」というのを差し替えているので「どんな場合も」というのはいらなかつたのですが、ここに「どんな場合も」というのを再度起こしてあると思うので、この「どんな時も」というのがいるないので良ければ「いずれも理解してもらって安心して任せられる支援」という風にしたら良いと思います。皆さん、たくさんのことその都度その都度思いついて言うので、それを文章に変えた時に、ごめんなさい、文章が入り繰りしてしまうことがあるので、最終ここは「いずれも」は残して「どんな時も」というのを削って「いずれも理解してもらって安心して任せられる支援」にするということで良いですか？

(奥田副部会長)

- ・内容については以上でよろしいですか？綺麗にしたもので配布の方をさせていただきたいと思います。

(部会長)

- ・この3枚にアンケートが付くのですね？

(奥田副部会長)

・そうです。配布に関しては今の3枚と始めにアンケートを取る時に配布させていただいたアンケート用紙の方をつけさせていただきます。配布についてですが、今日の資料に付けさせていただいているのですがアンケートを取らせてもらった時の配布の一覧のものが付いています。ここに配布をお願いするということで基本的にお願いをしていきたいと思います。それと、アンケートを取らせていただいた時におられて、今おられない方もおられると思いますがその追跡というのはちょっと難しいかと思いますので自立支援協議会の方のホームページにアップさせてもらうということでお願いをしたいと思います。配布についてはそれで大丈夫ですか？

(安蒜委員)

- ・いつぐらいに配布する予定ですか？

(奥田副部会長)

- ・いつぐらいに配布できますか？

(事務局)

・ものがあれば、すぐに配布できます。支援学校が休みに入る頃になるのではと思います。配布するなら一斉に配布した方が良いかなと思います。休みに入る20日までにいければ良いのですが。

(安蒜委員)

- ・ホームページにアップするのも配った後ぐらいですか？

(事務局)

- ・当然そうなると思います。ホームページが先ということはないです。

(安蒜委員)

- ・1月以内には届いている感じですね。ありがとうございます。

(北達委員)

- ・私が所属している第2乙訓ひまわり園がここには書いていないのですが、私も配布されているので、たまたま抜けているのでしょうか？一応、忘れないようにお願いします。

(部会長)

- ・来週中くらいにはできますか？

(事務局)

- ・できます。

(部会長)

- ・支援校の終業式には間に合いますね。

(奥田副部会長)

- ・では、来週中に。

(部会長)

- ・つまり、支援校が休みに入ってしまったら配るタイミングを合わせるために年明けまで持ち越さないといけなくなるから、できたら年内で事を処理した方が良いですよね。それでいいましょう。

2. 支援校卒業生の進路について

(部会長)

- ・支援校の山田校長先生からお願いします。

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・この間ずっと生活介護ということでこの部会では課題になっていたので生活介護でよろしいですか？今年度年度末卒業予定者高等部生は28名です。非常に多い卒業生数です。その内、生活介護は5名。内訳でいうと乙訓ひまわり園が3名、乙訓楽苑1名、あらぐさ1名の5名になっています。

(部会長)

- ・いつもは、例年というか、進路の先生が来てくださっている時は全部をお話してくださるっていうのですが。

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・全部言いましょうか？就労継続B型が7名、地域活動1名、入所施設希望が1名でまだ決まっていません。自立訓練1名、就労移行が2名、就労継続A型2名、就職4名、進学2名、現時点未定が3名、未定の3名については生活介護等ではありません。一番軽度のグループです。

(部会長)

- ・今現在、生活介護の枠がということで懸案事項であがっているけれども今年度はいけているということですか？

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・今年度はあがっていません。

3. 生活介護事業所の利用状況について

4. 今後の取組みについて

(部会長)

- ・各市町さんから情報をいただくことになっていたのでしょうか？

(奥田副部会長)

- ・皆さんに資料はお渡ししていないのですが、生活介護の各事業所さんの方にアンケートを取らせていただいています。

来年3月の卒業生の方を受け入れた後にどれくらい空きがあるのかということでお伺いをさせていただいている。まず、あらぐさんは1名受け入れ可能ということです。乙訓の里が4名受け入れ可能。乙訓楽苑が1～2名・女性で受け入れ可能ということで書いていただいている。ここはサービス提供にあたっての課題みたいなこともお聞きしているのですが、男性の支援者が少ないということで女性であれば対応ができるかなということで女性ということで書いていただいている。乙訓ひまわり園が障がい程度によると書いていただいているのですが若干名ということです。それから第2ひまわり園についても同じく障がい程度等・要件等ですが若干名受け入れ可能ですということです。乙訓若竹苑ですが「0です。」ということです。「受け入れができません」ということでお返事をいただいている。今、定員に対しての稼働率みたいなことをお聞きしています。「28年10月の実績で定員に対してどれくらいの稼働率ですか?」ということでお聞きさせてもらいました。先程言った順番ですが、あらぐさんで95.7%ぐらい、乙訓の里さんが87.6%、乙訓楽苑さんが97.4%、乙訓ひまわり園さんが101%、第2ひまわり園さんが88%、乙訓若竹苑さんが96.7%ということでお返事をいただいております。ということで、全く空きがないということではなく、乙訓若竹苑さんだけが「定員いっぱいです。受け入れができません」というお返事だったのですが、その他の生活介護の施設さんについては現状ですが1名ないし2名の空きがあるということでご回答をいただきました。

(安蒜委員)

- ・数字の当てはめではないのですが、来年度の生活介護の希望者だけ聞いておいても良いですか?

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・今は資料を持っていないです。

(安蒜委員)

- ・「希望するところに」という話なので、当てはめではないのですが。

(北達委員)

- ・どこかに提出はされているんですよね?ある程度、長期的に。結構、早い目から。

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・予想の数値は出しています。

(安蒜委員)

- ・予想も今、出せないんですよね?

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・手持ちの資料を持っていないので。

(部会長)

- ・今年度は卒業生が28名と多くて、その中で生活介護を希望される方が5名と、この割合的には少し今年度は少ないのかな。

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・今年度と来年度がこの人数が非常に多いです。

(部会長)

- ・でも生活介護を希望される方の人数はそう毎年変わっていないような印象がありますよね。割合は低くなりますが。

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・それはあまり変わらないです。来年度までが卒業生数が多くて、それ以降卒業生数が、今年度の1年生(高1)の中学校からの入学生が少なかったので就労継続Aとか就職や進学等そういう風な子ども達の数がどんどん減っていくとは思いますが生活介護が大きく減るということはないかと思います。減るのは軽度の子達の方が減ると思います。

(安蒜委員)

- ・ついでに聞いても良いですか?今年度の進路に当たっての見えてきた課題とかそういうのはありますか?

(部会長)

- ・一番大きな課題はやはり軽度の子達の進路です。未定という子が今3名います。進学と言って良いのかどうかという話をしましたが本校を卒業してから改めて再度単位制の高校に入り直す等の生徒がいたりします。

(部会長)

- ・私達も進路相談に相談という立場で地域の一般相談とか委託相談等相談で関わるところでいうと支援校の在校生の方々の支援校の内部という言い方でごめんなさい。無視というのではなくて、支援校の色々な課題、障がいのある方々というその世の中の障がいというものへの捉え方とか、差別解消法や特別支援教育というような捉え方の中で支援校に在籍される方々の状況が変わってきている。もしくは広がってきている中で、その後の進路についても厳しいというところはあるかもしれません。この内訳も進路先がどれぐらいこの圏域の中でこの圏域に住みながら通えるところを確保できるかという話としてこの進路の話があるので、特にこの地域生活支援部会ではこここの地域に、暮らしてきた地域の中でそのまま住みながらで望む就労先に通うこと、もちろん出ることを望んでおられる方達はそれはそうなのですが、就労先がないが為に家を出なければならないという状況にはならないような地域の体制作りというのは考えていかないといけない懸案事項だと思うので、そういうところでは課題というのはどんどん出てくるのかなと思います。今まで生活介護が足りないというところでの課題が凄く喫緊の課題としてあったのですが、どうもここ何年間かの様子を見ていると数合わせだけではないので、本当は望むところを選べればその方が良いので、数がいければ良いのではないかという話ではないのだけれども、枠としてはそれがなくてどうするのということでは今年も来年に向けても少し数はあるのではないかというところです。それから近隣の、乙訓圏域外のところにも生活介護やBも含めて新しい事業所が立ち上がりしていく中でここはそこへも、そこの利用、京都市内だったりとかというところの事業所の利用も可能な交通圏域にあるので、そういう意味では少し生活介護や就労Bあたりの人達の選択肢ということができつつあるかなあという印象は持ります。ただ、それが本当に望んでいるものかどうかというのは、もっと質の向上というところはもっと考えていかないといけないと思うので、数があれば良いという話ではないのですが本当に数もないというところからは少し脱した感が印象としては去年・今年・来年の見通しというところぐらいではあるのかもしれないなと思います。今はそんな感じです。今ざっと山田委員からざっくりの報告をいただきましたが、それは突き詰めていくと個人が特定できてしまふ話になるのでこれは個人情報になるのであくまでもここで動向を見るために教えていただいたというところで終わらせさせていただきたいかなと、そういう風に理解してもらいたいなと思います。

(安蒜委員)

- ・今年度の議題としては特にもうこれで「受けました。」ぐらいで良いってことですよね。

(部会長)

- ・そうだと思います。ここで議論する議題にあがってくるような話題ではないという風に思います。

(向日が丘支援学校・山田委員)

- ・28名中、今、伊藤部会長からありました乙訓から生活拠点を移さないといけないという人は入所施設が希望ということで1名あります知的の入所施設がないので、その人以外は基本乙訓に住みながらという進路になっています。

(部会長)

- ・という状況です。生活介護の事業所に対するアンケートは今とっても報告がそんな状況なので、今後この部会として、このことにどう取り組んでいくかというか、課題がなくなったわけでは全然ないのですが、今そういう状況にあるというところで捉えてもらったら良いかなと思います。このアンケートは今集計できたばかりなので、少しアンケートの中身を整理して、お伝えして、次の話題にしていく必要があるかなと思いますが、どんなものでしょうか?

(事務局)

- ・さっき言った施設以外に第3ひまわり園も受け入れの方向であることは頭に入れておいてほしいです。

(部会長)

- ・来年度?

(事務局)

- ・来年度にオープンです。京都市がメインになるという話は出ているのですが。

(部会長)

- ・さっきも言いましたが、大原野、羽束師等、京都市内やもうちょっと南の方等で近くで交通の便が良いのでそういうところも利用可になっていくということです。良いですか?何かありますか?

(奥田副部会長)

・次第からちょっと外れているのですが、前回の部会の時に地域生活支援拠点についてということで、各市町さんで今現在お話をいただける範囲でということでお話をいただきたいということでお願いをしていたので、この場でご報告ではないですがお話をいただけたらと思います。今日は飯山委員が欠席です。ちょっと、紙をいただいているので始めに読ませていただきます。

「地域生活拠点について

大山崎町の第4期障がい福祉計画（平成27年～29年）策定委員会の中では、保護者の高齢化に伴う切実な願いとして、知的障がい者の入所施設の必要性が語られています。町としても緊急時の短期入所先の確保に苦慮しており、入所施設に併設の短期入所の必要性は強く感じております。策定委員会では地域生活拠点として、入所施設を整備してほしいという意見が大半でした。そして、あわせて拠点には、気軽に行ける憩いの場、生活相談、情報発信等の機能を求める声がありました。

現在、町としては施設整備という大きな課題の前段に、入所施設は作らないという国の方針もあり、拠点整備か面的整備かも含め具体的な整備の方向性を見いだせていません。

また、この拠点が地域生活支援事業に位置づけられていることも、財源の問題含め課題と認識しております。」
ということです。

(部会長)

・では順番にお願いします。長岡京市さんお願いします。

(樋口委員)

・長岡京市も課内で確認している状況です。長岡京市においても障がい福祉計画、第4期計画の中で29年度末成果目標としまして乙訓圏域で1ヶ所整備ということで設定をしております。昨年秋の二市一町の課長会の中でも乙訓圏域で1ヶ所、民間でということのお話をされているということを聞いております。現状そういう核となる施設というところがない中ですので面的な整備ということに現状で言えばならざるおえないところなのですが、長岡京市としましてもこれまでヒアリングであるとかパブリックコメント、また市のネットワーク会議の中で意見をお伺いする中でやはり24時間対応、入所機能を備えた核となるような施設、機能を集約した施設の整備の必要性というのは認識はしておりますので、そういう施設があることが望ましいという思いは持っているところです。具体的に何か今、施設の決定事項があるということは当然ないのですが選択肢と言いますか、ひとつはポニーの学校の跡地、こちらに関しては二市一町の持ち物ということになっていますので長岡京市が単独でどうこうということにはなりえないのですが、やはりそういった現にある土地も活用というところの可能性も期待をしているところではあります。これまでからそちらに関しては進入路の問題等もありますので、実際の活用に対しては課題はある中なのですが隣接地の地権者の方と協議が進められている状況という風に理解しております。あと、今日、校長先生もいらしておりますが向日が丘支援学校、こちらに関しては将来的に全面改築するというところの情報が入っているところです。他の支援学校の方をまず優先的にと言うことで今、京都府においては進められているということですので向日が丘の時期がいつになるのかも含めて、まだ定かではないというところではありますが、といった広大な敷地を有されているところでもあるので敷地に余裕といいますかそういう余地があるのであれば障がいに関する施設の整備というところで候補にあがってくるような可能性があるのかなということで期待をしているところでして、今後とも情報の収集に努めていきたいというのが今の状況です。

(岩谷委員)

・向日市ですが地域生活拠点の整備は大山崎町さんもおっしゃっていたように27年の3月に策定した第4期の障がい福祉計画では、当時、策定した当時は国からの情報が少ないので第4期の京都府の障がい福祉計画において整備目標値が記載されていなかったので向日市としての目標値は明確には定めていません。乙訓地域での整備については乙訓圏域で1ヶ所整備しているのと民間事業所で担っていただけたらと言う方向性が二市一町の課長会議の場でも確認されているところです。引き続き、この地域で安心して生活していただくことができるための条件のひとつとして24時間の対応が可能な施設が整備されていることがあげられるので拠点整備は必要であるという風に向日市としても考えているので、今後については既に整備されているところへの視察等も検討していくければなと考えているところです。

(安蒜委員)

- ・再確認ですが、乙訓の市町で一緒にひとつを作るというのは一致した意見ということでおろしいですか？土地の候補等は今、目星を付けているけれども、それが公営というか行政的なものがやるのか、民間がどこかするのか等、工程表みたいなものはどこまでできあがっているのか、一応29年の末までには建てようかという目標で今動いているのだとしたら工程表等はないのでしょうか？

(樋口委員)

- ・前回の会議でも申し上げたのですが、今の決定している内容・中身として考えている動きというのは今言ったことが全てということです。

(安蒜委員)

- ・建てるということにはなっているということですよね。

(樋口委員)

- ・長岡京市の思いというか、そういう認識でいるというのはあるのですが場所のこともありますし、どこが建てるのかを考えても今この場で決定事項としてお伝えできる段階にはないということです。

(部会長)

- ・建てるということが決まったのではなくて、建てねばならないだろうということが確認できている。それは二市一町の課長会の中でも確認はされている。ただし、目標がいつまでにとか、どんなタイムスケジュールでとか、具体的に土地の確保についてであったり、事業者の選定であったり、もしくは公募であったりという実際の作業はまだ何も動いていない。そこの理由は何故かというと国が入所施設は作らないという方針を持っているところで入所施設というものを作るという議論がどんな方法で進んでいくのかが、たぶん二市一町の足並みも揃っていないところで、今やっと建てるという確認、この圏域としては國の方針とは違うかもしれないけれども。

(安蒜委員)

- ・拠点じゃなくて入所施設を建てる。

(部会長)

- ・入所機能を持ったものでないと、この圏域には入所機能を持った事業所がないので、グループホームしかないので、グループホームと入所機能とはイコールにならないので、職員配置上等もならないので入所機能を持った事業ということを一定、想定しないと24時間・365日体制の拠点事業はそこに付加することはできないだろうなというところまでは今の三市町の報告の中から読み取れることだと思います。そのタイムスケジュールも何も、具体的にどんな、入所機能を持ったけれどもどんな規模の、どんな機能のものにするのかということも明確にまだなっていないというのが現状かなと思います。土地についても候補までもいかない、もしかしたらそこは使えるのではないかなどというところで、支援校の改築もまだ何も決まっていないところだし、そのプランだって、その土地が空いてくるということだって、まだわからない話だし、ポニーの跡地にしても、それは何もわかつていないところで、もしかしたらそういうところも可能性を探ってみようというところかなと、今、三市町の報告から読み取ることはその段階かなと思います。

(安蒜委員)

- ・結局、課長会議でそういうお話をされて具体的にたぶん皆さん協議会等で他所は詰めていかれているみたいなのですがそういうのを作ろうとかそういう動き方もお聞かせ願えたらと思います。この自立支援協議会がどう関わるかというか。

(部会長)

- ・その協議会というのは何の協議会ですか？

(安蒜委員)

- ・その拠点整備の委員会、協議会を作つて、地域と一緒にやつているところがかなりあるのですが、入所にしても読んでいると高齢者の高齢者ホームが作れるから、そこから取っ掛かりをもつて入所みたいなものを作ろうとしているところもあって、とりあえずは三者集まってお話をしていただかない限りは何も進まないかなという危機感があります。

(部会長)

・自立支援協議会の地域生活支援部会としてはその話を今、国が整備を言ってきました、その整備にあたって、どういう風に考えるのか。地域生活支援拠点そのものがどんなものなのかというのも去年から、もう既にやっている府下のところは2ヶ所、それぞれの地域の特性に沿ったものすぎて全然違うというところも含めて、24時間の安心安全コールのことも調べてみたり、勉強したけれども、それも実現可能と思えにくい、モデルのないところで、じゃあ自立支援協議会の地域生活支援部会の中でこのことにどんなスタンスで関わっていくのか、リードしてこれをやりましょうという風にやっていくのか、それともやってくださいというお願いをする方向でいくのかというところも今の時点ではここで話し合いきっていない。今、話題として出てきて何とか市町の状況をということで市町の今現在のやらないといけないと思っていますというところまで確認ができたので、今、安蒜委員がおっしゃってくれたことはそうなのですが、それはまだ地域生活支援部会としてお願いする段階までにはいっていないので、今、ここでしないといけないことは地域生活支援部会として一定、緊急時対応のアンケートも取り、やはり緊急時対応の時に連絡が取れるところとか、事業と事業の連携、それは相談支援部会との関連もありますが事業と事業がうまくネットワークをして、チームで関わってもらえることとかそういう面的な整備というのも含めてどんな風に障がいのある人達の地域生活をどう考えていくか。一番、行く場所がなくなってしまうみたいなところの時はそのことを作ること、場所を作ること、行くところをあけていくこと、定員を増やしてもらうことが話題だったけど、一旦そこが少し余裕とまでは言わないけれど、一旦ホッとできる状態になったところで次の話題でもそうなのですが地域生活支援部会としては次何を一番重点項目として議論していくか、もしくは実行していくかというところが出てくるかなと思っています。ということで、一応、地域生活支援拠点については現状そんな状況にあるということです。

(安蒜委員)

・運営委員会の方でも話し合われているとお聞きしたのですが、そちらはどんな感じでしょうか？

(事務局)

・話し合ってはいないです。資料提供はしました。

(部会長)

・情報収集です。現状で今、情報が非常にならない中で、協議会を作つてとか今おっしゃってくれましたが、本当にその地域・地域の特性に合わせてしていて、まして、この乙訓という地域は少し特殊な状況にある地域もあるので、そこはどこかのプランをそのまま持ってくるわけにはいかないものだと思います。

(安蒜委員)

・いかないだけに下準備がいるのかなと凄く思います。私は本来、市町が主体性をもつてやるべきことだと思っているのですが。色んなところが自立支援協議会を活用してと書いてあるので。地域のニーズ等を引き出すのはそういうところを活用してという書き方はしてあるのですが、そういうのでやっていけることはないのかなと思った次第です。

(部会長)

・自立支援協議会そのものも、この圏域も10年になって他市の他圏域の自立支援協議会も本当にそれなので。本当に実行あることをやっている部分と本当に形式的な部分も、それも地域で単一ではない、あることについては凄く実行力をもつてやっているけれども、あることについては形式的な会議になっているところもあったりするので、そこもちょっと、私達ももう一回ちゃんと考えてやらないといけないところではあるかなとは思います。テーマをより具体的に絞つて、どうしていくか。今年は去年からのこの3年越しのアンケートのところで見えてきたものを分析して家族のニーズというか家族に何かあった時の緊急時対応ということで今年はここまでできただけども、今度は残しているご本人の不安感にどう寄り添うかとか本人の訴えのところも置いているので、そういう意味で広く色々な課題は見えてきたのだけれども広い課題の中からどれをピンポイントでやっていくかというところを今度は絞り込んでいかないと、次のこの部会として何を、どの部分を担っていくのかというところを絞り込んでいく必要はあるかなと思っています。

(北達委員)

・先程、GMが運営委員会や市町の方には色々と情報は提供しているというお話をありましたが、例えば、実際に私達が見学とかそういうのは難しいのでしょうか？

(事務局)

・というか、最初に拠点の勉強をしないといけないと思います。行く前に。

(北達委員)

・皆で共通認識をもってというのは凄く大事だと思います。

(事務局)

・それがあつてこそ、行って、色々な質問ができるので。行っただけでは向こうの説明を聞くだけで終わってしまいます。この近所では八幡が開始したという話を聞いています。それもメインが通所施設で、運営したりして、しばらくしたら問題が見えてくるので色々な話が聞けるかと思います。

(北達委員)

・京都市はどうですか？

(事務局)

・京都市はこの前、新聞に載っていたのはご存知ですか？前の醍醐和光寮でやっているのですが夜間に対応する人が電話がかかってくる人の名簿をそこにためています。だけど今年度に限って京都市の委託契約の中で最初だから施設で受けなくとも携帯電話で受けたら良いということで今晚かかってきそうな人、10人分くらいの名簿を持って出て、車の中に置いていたらそのまま盗まれてしまったというのが新聞に出していました。やはり、定点でないと色々な事故があるということがよくわかりました。始めたばかりなので、色々な問題が視察に行ったら聞けると思います。

(北達委員)

・例えば、勉強会、本当にそれに詳しい方を招いての勉強会なんかもGMは何か持っておられるのでしょうか？

ちょっとずつでもそういうノウハウを、それができるかどうかは別にしても、どんどんその日にちが近づいてくるのは事実なので漫然とというよりは少しずつでも共通理解していくとか学んでいく等、具体的にちょっとずつでも始める。

(安蒜委員)

・私は緊急時をやって、やっぱり24時間相談するところとかを凄く書いておられたので支援もですが、モデル事業のを読んだのですが支援につながるまで、とりあえず誰かが見てなきゃいけないから、その預かる場を作る市町もあったのですが相談のところからやっていっても良いぐらいではないかと思っていて、ちょうど連絡会とかもあるので。とりあえず、今、問題が抽出されただけなので、そこから先には進んでいないので出て来たものをどうしていこうかというところからいっても良いのではないかと思います。どちらにしろ、大きいものがひとつできてもネットワークがないと結局その方が大変なだけでそれぞれつながっていかないといけないと思うので、先にそういうのを作ておくというか元々ここにはあるのだと思うのですが、あるのを強化したりとか、そういうのでちょっとでもスムーズに、できた時からどうしようではなくて、できる前にこの地域の結びつきみたいなものを先に組んでもらう手を考えていけたらアンケートからつながっていくのではないかなと思います。

ひとつ質問ですが入所施設というのはこの地域から、今、他所に入っていると思うのですが、その人達の数を超えた入所施設を作ってはいけないとか、あるところで読んだのですが、結局、乙訓から入所に入っている人以上を入所に入ることになってはいけないみたいな、何か入所施設の決まりってあるのですか？そもそも、建物を建てるなってことですか？

(樋口委員)

・何が基かわからないのですが。私自身もちょっとわからないです。

(安蒜委員)

・一応、モデル事業の中に入所施設が建てられない理由で書いてありました。この地域で入所施設を利用している人の人数が増えるといけないと書いてあって、その入所施設の作り方のルールが私はわからなくて検索したのですが。

(事務局)

・入所施設を作らないというのは？

(安蒜委員)

・地域に戻せという話。

(事務局)

・國の方針ということですか？

(安蒜委員)

・でも作っているところもありますよね？

(事務局)

・ごく一部です。数字に表れるのは立て替え、改築です。数字だけ見ると新設みたいに思うのですが。ごく一部には新設もありますが、ほとんどが立て替えです。

(安蒜委員)

・今、入所を探している方も他所に行こうとしたら、そこの場所の方は他所に行っている人が地元に戻るために空けているから他所の人は入れられないみたいな話になっていると聞きました。

(事務局)

・それはないと思います。

(安蒜委員)

・実際そうらしいです。なので、どこも入所施設がない。

(事務局)

・障がい者の方が5年、10年とずっと生活していて、その環境をまた変えるというのはまず前提としてないでしょ。こっちに建てたから戻っておいでなんてないと思います。簡単に動けるのかなと思うのですが。まず、音頭をとってやるというのはあり得ないと思います。

(安蒜委員)

・結構、動いている人はいます。実際に見ています。でも、拠点としてだったら、今であれば建てられるということですね？今、施設整備をしようとしているのだから、突破口がないと。

(岩谷委員)

・先程申し上げた24時間というのは入所機能というよりは國の方の資料でも地域生活支援拠点でどういう機能が求められているかみたいなのがありますがその中で緊急時の受け入れや対応というところがひとつの柱になっていて、夜間等で緊急時アンケートであがっていたような事象が起きたときにすぐに、短期入所の事業所はありますがすぐに入れないという事情から、そういう緊急時の受け入れ対応ができるという意味で24時間と申し上げましたが、もちろん入所機能があれば尚良いのは良いのですが、どちらかというと向日市としては、優先順位の付け方としてはショートの利便性であったり対応の向上の方かなというイメージではあります。ただ、その大きな方向性としてはまだ二市一町確認はされていますが、どういう機能か等の細かいところはまだお互い確認はされていないのでこれから協議かなと思います。

(安蒜委員)

・その機能を考えるときにやはり地域の意見というか、できることからやらないといけないのかもしれません、くみ取っていただかないといふ思います。

(北達委員)

・例えばとか本当は枠、その本当の受け入れ先がほしいのですが、例えば困難ケースの場合にというのがある程度、各市町であると思うのですが、その重度の困難ケース、この人がこうなったときにはどういうパターンで、どこにお願いしてみたいなカルテというかケースの検証みたいな具体的にやる中で、この人はこう考えていたけれどこのパターンではいけないのでより圈域のここには依頼しましょうみたいな具体的な個々のケースから、それによって当然各事業所の連携というのも、この人からこういうコールがあった時にはここへ電話しますよというのが確実に連携をとっていかないといけないので、そういうでの学習会というと変なのですがその困難ケースに関してはそういう普通の相談のカルテだけではなくて、そういう緊急時のカルテももう一回書いていって、それに沿ったシミュレーションをしてみて、実際にシミュレーションをしてみたら、そこで凄く見えてくるものとか、やっぱりこれがないと絶対無理であるとか、今アンケートで色んなことが明らかにはかなりなっていますが、それをより鮮明にしていくことによって、拠点のイメージが少しできてはこないのでしょうか。もし例えば、受け入れ先というのにアプローチするのが物凄く難しい

のであれば個々の事例の困難ケースに関して連携方法なりをもう一回、そういうのも私どこかで見たような気がするのですが。それぞれのカルテみたいなものを作っていくというところからまずは始めてみるというのもやり方のひとつかなと思ったりするのですが。どちらかというと相談支援部会でやってもらう方がそれは良いのかと。

(部会長)

・今、相談支援部会はケース検討というかケースに学ぶ、その人の検討ではなくて色んな相談のケースに学ぶということをされています。こんな考え方もあるよね、こんな支援があるよね、ということを今されているところで、やっぱり相談がキーパーソンになっていくというところで言うと色んな状況があつたり状況の変化があつたり突発的なことが起こったときにどうするかというのは相談が中心になってネットワークを組んでいくので、その時その時の状況に対応して他の事業所と連携していくということがされているし、その力量をどうあげていくかというのが課題になっていると思います。地域生活支援拠点というのはもう少し広い意味で暮らしを良くしていくことがもっとできないかということも先程の項目の中には入っていたかと思うし、要は夜も対応できる機能とかショートが受け入れられる機能とかいうところまで欲しい機能というものもあるだろうし、ただこの圏域はやはり長い歴史の中で安易に入所じゃなくて地域が皆手をつないでその人やその人の家族を支えようという方向で進んできた地域なので、もっと早い段階というか、言ったら障がいのある人達の支援の歴史の中で施設に預けるのではない、入所ではないことを頑張りましょうと言ってきた地域なので、そのこともやっぱり念頭に置いておかないといけないし、時代の変化というのも念頭に置いておかないといけないので、この地域の何が必要かということを学習したり議論したりという取組みをしていくのであればしていくという方向で提案をしていけば良いと思います。それを地域生活支援部会ですか、もしくは中のプロジェクトみたいな形ですかというのを再度、来年度の課題にしないと、もう今12月なので。じゃあ地域生活支援部会としてそのことを地域生活支援部会でやりましょうかといって今年度から手をつけていく。何らかの準備を始めて引き継ぎの項目とするのか、それともそういうことをプロジェクトとか何かを作つてやる必要があると思いますという提案で終わらせるのか。今年度の部会としてどうするのかというのが少し考えておかないといけないことだと思うので。部会としてはその辺りのところをどういう風に取り組むのか、もしくは提案するのか、今年度のまとめとしてどうするのかというところがあって、年度のまとめということになるので。今年はどうしてもこのアンケートのことでたくさんの時間を使ったので、どうしますか？どうしたら良いですか？次の部会の時にもう少し何か提案等それの思いで良いので何か持ち寄つて少しそのことを話題に議論してみるのもありだと思うのですが、山田委員何か意見がありそうですがどうですか？

(山田委員)

・今、どの項目で話がされているのかと思ったのですが。

(部会長)

・今後の取組みについてです。地域生活支援拠点と今後の取組みのところについてどうしていくかというところです。

(山田委員)

・この部会の今後どうするかということですか？一定、緊急時対応についてのアンケートをまとめた。アンケートをまとめて、課題は整理ができた。その課題についてはここはお金を持っていないからできるところではないので、そのことを具体的に何かしようということについては、何かしようと思ったらそれは絶対にお金がかかることなので、ここはそれができない。でも、こういう課題があるということまでの整理はできたというところまでですよね。

(部会長)

・そのことが地域生活支援拠点という事業というか取組みの地域生活支援拠点を作るということにつながつていくだろう。

(山田委員)

・そういうのが必要だという話にはなっていますよね。

(部会長)

・このアンケートの結果からもそういうものが必要だよねと。ただ、そういうものが必要だよねというところと市町さんの今の現状のところのお話を聞いたところで、このことについて地域生活支援部会としては今年度はどこまでのこと

をして、まとめとしてどうするのかという話を私は言っています。だから、今後このことについてこんな取組みをこんな形でもっと議論をしたり話題にしたり色々なところで広げていく必要があるよという提案とするのか、それともこの地域生活支援部会の中で何か作業を始めるという方法でするのかというところが今年度としてはどこまですることをするのかというのは一定皆さん意見を聞かないとというところで今お話ししているのですが。それを含んだ今年度のまとめの作業に入らないといけないので。

(山田委員)

・今のお話の中で具体的に出ていたのは例えば八幡であったり、あるところはあるので見学をしましょうということ。見学の前提としてしっかりと知識を持つことが必要だということ。具体的にはその2つですよね。私はそう理解しているのですが。それから、各市町さんから話がありました。入所施設云々という話で國の方針等の話がありましたが私は大山崎町さんの保護者の高齢化、短期入所の必要性、入所施設の要望が非常に強いというそういう口答でのお話が色々なところで聞いていますし感じてますが、じゃあどの程度、緊急時アンケートについては数字的なものが根拠として緊急時の色々なことについて、まだ乙訓地域では非常にニーズがあるけれども具体的な対応をするものがなかなかないということは根拠を持ってこれは話しました。ただ、今、大山崎町さんから出たような高齢化であること。保護者の方の高齢化、障がいのある方の高齢化、そういう中で生じてくる短期入所であるとか入所施設についての要望が非常に強い。そういうことは二市一町、乙訓圏域ということであれば、こういうところでしかこれはできないのではないかかなという風に思っています。ちょっと先の話になりますがこういう話が出たので私は今年度について学習する、見学する、一定委員では共通のベースの知識・理解を持つということ。次年度に向けて、今後の取組についてというところの話がありましたが次年度に向けては今も話がありましたが何回も入所施設という話が出ているので入所の要望、短期入所であったり入所施設という話が出ているのでそこに関してベースになるデータをきちんと持つということは必要であるという風に思っています。

(部会長)

・まずは学習なのですが、今、山田委員がおっしゃってくれているようにやっているところの情報というのは欲しいところなのですが、まだ八幡もこれからだし、去年・一昨年くらいから、らしきことをやり始めたところがトラブっているし、等の色々なことを考えたところで、まだやっているところに色々なことを聞きに行くにしても基礎的な知識がちゃんとないとそれはできないので、するとすればまずは学習会からだと思います。大山崎町は入所施設の要望が凄く高いとおっしゃっているし、向日市としては入所機能ということに特化せずにその24時間の対応ができる機能ということをイメージして持ってらっしゃるので若干そこの出来上がるものに対するイメージもまだまだそれまでだと思います。そういうものがあったら面的な整備なのか、それとも本当に拠点という箱がいるのかということを含めてもまだまだそれぞれのイメージの中であるものなので、まずしないといけないことはそのイメージをどんな風に持つたら良いのかという学習から入らないと無理かなという気が、今、山田委員のお話を聞いていて思いました。

(北達委員)

・この結論のところから言うと現実には、もちろん将来的にはその拠点というイメージをどんどん固めていくことは必要なのですが、現実、今現在本当に困っているという切実な思いに対して直接的な支援としてショートステイや日中一時など安全確保のための見守り支援を望む声もたくさんありましたという結論がこの中にひとつ出ているのであれば、このショートステイや日中一時がこの地域で一応何らかの形ではされているけれども非常に不十分だということで、それをもうちょっと何とか強化というか量的にもしていく努力というかそれについての提言なり、もうちょっとどういう要素があればそれが増やせるのかということをこの部会の中で具体的な案として出していくのも、この拠点というのは上位概念というかかなり結論的なことなので、そこに行くまででもここでこんなに困っていますよということに答えるということにおいてはそこにも凄く意味があると思うし、またその先にもしかしたら拠点のひとつの解決案が見えてくるのかもという期待感もあるので、そこに関してはどうでしょうか?せっかく分析をしたのにそこはポンと置いておいて。

(部会長)

・置いてはいけないです。地域生活支援拠点という話題をそのことをテーマとしてあげて話をしていくのであれば、今言

ったようなそのことについての学習がいります。でも、そのことはやっぱり、そのキーワードは置いておいて、今私達は確実に堅実にアンケートの中からあがってきた具体的なニーズに対してどう対処していくことができるのかということをこの部会では考えましょうという風に合意がとれるのならそれで良いと思います。

(北達委員)

・私は両方思っているのですがどちらも必要、将来的なビジョンももちろん必要だろうし、繋がっていくし、でもそれだけをやっていっても結局はなかなか本当に現実には近づいていかないので、喫緊のこととしてはこの出てきたキーワードをよりもうちょっと何とかならないかという工夫なり、家族としては本当にずっと先まで心配しなくても良いと思えるような状態でもないので、そのところも何かアプローチだったり部会であつたら良いなと思うのですが。

(部会長)

・要は優先順位の問題です。それとどちらからアプローチするかという問題だと思うので、この地域生活支援部会としてはこのアンケートの集計やニーズのところで出てきたショートステイや日中一時や相談ができる窓口というところが本当に足りないということに対して何ができるかというのを考えていきましょうというところで話を進めていって良いですか？どちらも同時進行でというのはやっぱりこれは無理です。

(安蒜委員)

・それを積み上げて、また拠点に活かしてくださいという方向で良いと思います。

(部会長)

・たぶん報告としては地道なことを積み上げてその拠点にという話まで報告に入れようとすると今度は拠点とは何かという話になってしまふので、そのどちらの思いもあるけれどもどちらも入れるということについては非常に難しいことになります。まず私達として、この部会としてはこのニーズに応えることをやっていきましょうというところで今年度のまとめと今後、今年度では終わらない、何をしていくかというところで少し皆さんから提案を持ち寄っていただきてお話をするというのを次回の部会でさせてもらって良いですか？次回の部会である程度出てきたものを文章としてまとめて、もしもう一回集まって文章をやり取りする必要があればもう一回部会を開く。

(安蒜委員)

・市町に対してはこのアンケート結果というのはこれを付けてと部会のまとめで報告ということで、特にこの足りないという話があるので作ってくださいとかそういう要望書みたいなことまではやらない？

(部会長)

・ずっと何年もの中で自立支援協議会と各市町もしくは府との関係性の中で要望をするのか意見をあげるのか要求をするのかというところで色々なことが起きてきていると思います。だから、市町も自立支援協議会のメンバー・一員なので一緒に考えているという前提で話を進めないといけない。それでより具体的な何かを出していかないといけない時に、それは相手が市長なのか誰なのかということも考えたうえで提案なりお願ひなり意見なりというどのトーンのことをしていくのかというのは議論しないといけないと思います。ちゃんと考えないといけないと思います。希望をお伝えするというざっくりとした話ではやっぱりだめなので、このアンケートの結果は各市町からも部会員として出でもらっているので必ずこの流れそのものちゃんと報告がいっているはずなので市町としてはこれを把握しているという前提で私達は話を進めています。把握してもらっていることに再度報告をするのであれば何を報告するのかということをちゃんと整理して報告しないと、要望するのであれば誰に何を要望するのかということをきちんと整理しないとだめなので。このアンケートを受けてショートが足りないという話もずっとしていることなので、でも再度出てきたことに対して、再度何をするのか、もっと具体的に何をするのかという話を次回少し、今ここでもうこの話の続きをするのも時間的にも皆さんのが持つてらっしゃる情報的にも考えをまとめていただくことにも無理があると思うので、次回その話をして、それをまとめて、ある程度何らかの方向性がまとまるならまとめて報告書を書くので、再度報告書の文章をやり取りしないといけないのであればもう一回部会をするということで良いでしょうか？坂本委員、何かありますか？

(坂本委員)

・どう話をして良いのかというのもありますが、先ほど部会長も言われたどのトーンで話をいいたら良いのかという部分が一番のポイントなのかなと思います。先ほどの地域生活支援拠点の話でも二市一町でどういう風に合わせてい

くのかというところとこの場所でどういった話をしていったら良いのかという部分のところがずれないと結果的に歩み寄れなかつたりということにもなってくるので、議題ごとにどのトーンで話をしていきましょうということのゴールを決めてから、この部分で話をしていきましょうというとそれに向かって話がしやすいかなとは思うところがあるので、どちらが先かというか先行してこういう風にやっていきましょうと盛り上がっても今はそれは違いますよと言うような話だと結果的にずれた時間帯になってしまふので、そのタイミングも含めて行政と足並み揃えていけるような感じで話をしていければと思うので、今後の取組についてというところでも二市一町の計画の中で一体どの部分のところを自立支援協議会のこの部会で話をしてもらいたいのか、それについてどの程度の話・意見を聞きたいのか、まとめてほしいのかというところも出しておいていただけるとより色んなことに早く取り組んでいけるのではないかと思うので、そういうところも合わせていく作業もしたいなと思います。

(安蒜委員)

- ・連携、連携と言われているのですが関係性もよくわからなくてすみません。難しいです。

(部会長)

・今、坂本委員も言ってくれたように今後、相談支援部会の方でも福祉計画の数値の整理の仕方とか現状を知ろうという動きもしてもらっているところなので、そういうこととも連携もしながら、情報ももらいながら何をしていくのか、どんな提案があるのか、できたら良いというのはそれはそうなのですが、そのできるまでの増やすまでのプロセスに何があるのかということをちょっと皆さんそれぞれ考えてきていただくということで、次の部会で話をしましょう。こちらから出せる情報というか、もう少し何か準備できるものはしたら良いと思うので、ちょっとそこはお時間をください。もし、こういうことについて考えてきてくださいということがあればというか、事前に次の部会の案内をさせていただく時にこのことについて話したいので少し考えてきて下さいということも合わせてご連絡をさせていただきますようにしますので、今何について考えたら良いのだろう、何をしたら良いのだろう、たぶんショートステイを増やしてほしい、ショートステイが緊急であっても使えるようにしてほしいというそこは変わらないのだけれども、そこに向けて何を考えれば良いのかというのが考えきらない部分で、事業所をやっている側からもできればしてあげたい、引き受けたい、でも具体的に物理的にこういうことがあって、無理という場面があって、いっぱいいっぱいで皆やっていることなので、それにどんな打開策があるのかというのを考えていかないといけないことなので、ちょっと宿題ということで預からせてもらって良いですか？今、何をしてきてくださいということは私も言い切れないで。良いですか？

(北達委員)

・何か参考資料としてでも、もし学習会のことも、凄く知りたいなとは思います。せっかく何か持っておられるなら何か提案ではないですが、どういうことを学習会としてイメージしてくれているのか等も。

(事務局)

- ・持っているというか、パソコンを開いたらだいたい出てきます。

(部会長)

・だからそれしか今はないです。話題が違う方にいきますが地域生活支援拠点というものがあったら全てが解決するということにもならないし、そのものもとても不明確なものだから。

(安蒜委員)

- ・だから、モデル事業をやってくださいということになるんですよね。

(部会長)

・そうなんです。モデル事業で取り組まれたところもそれぞれ色んなご事情があって、とりあえずのやり方でやりましょかと言つてとりあえずのやり方をやつた時にトラブルが起きたりとかいうことが現実起きているので、その情報なら集められるかもしれないけれど、今その情報を集めて何を作っていくのかというところには、元々のプランがないところではマイナスな失敗情報だけを集めて仕方がないわけで。

(北達委員)

- ・今はその時期ではそもそもないということですね。

(部会長)

・ここ2年ぐらいずっとその話が出ているけれど、じゃあ何をもって学習するのかと言った時に、その材料がないよね
というのでここまでできているのが現状です。

(北達委員)

・一応、何かあるのだったら、それも見た上で何か具体的なことも考えられたら良いなと思ったのでちょっと言ってみたのですが。そういうことであれば了解です。わかりました。

(部会長)

・そんな状態です。ということで、日程調整どうしますか？

(安蒜委員)

・次があって、もう一回部会のまとめをやる部会があるのですか？

(奥田副部会長)

・次をやつたらまとめを作るので、その後にあります。

(安蒜委員)

・あと2回あるということですね。

(部会長)

・2月1日・2日・3日でだめなところを言ってください。では、今日来ておられない方もおられますので、第1案が2月1日の午前中ということで一旦お願いします。

ということで色々考えていく方向をまた考えるということになりますが、少しずつ進んでいけるように、アンケートの取組みも終わったわけではないので引き続きやっていきたいと思います。今日はこれで終わります。ありがとうございました。

5. その他